

とままえ

10

No.590



風かおる
人が輝き
躍動するまち



まちひと百景

犯罪は忘れた頃に…

実践型防犯教室にて行われた特殊工具を用いて家のカギがどのように開けられてしまうかの実演。

10秒もかからずいとも簡単に開けられてしまう様子に唖然としてしまう方も。また、家にいないときは施錠していても、家にいるときは施錠しない家庭も多く見られた。

いつ犯罪にあうかわからないことから、防犯の必要性について考えるいいきっかけとなった。

- 苫前町議会だより…2～7
- 陸上自衛隊第2音楽隊巡回演奏会ほか…8
- 小学校体育大会・町民マラソン大会…9
- ヒラメ人工種放流式ほか…10
- 学びの広場…11
- 健康ばんざい…12
- 国保・後期高齢者ガイド…13
- 国民年金・文芸…14
- H21健全化判断比率等…15
- すまいる情報…16～17
- 中学生ギャラリーほか…18

苫前町
議会だより
合併号

まちの人口

人口／3,641人 (男／1,704人：女／1,937人)
世帯数／1,642世帯 (9月30日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>

苫前町議会

2010

議会報発行特別委員会

議会だより

10
No.81

苫前郡苫前町字旭37番地1 TEL64-2385

委員長 猫島 優
副委員長 西 大志
委員 青木 幸隆
// 渡部 一男
// 小倉 哲
// 田沢 收

平成22年 第3回定例会

一般会計補正額 3億3,057万円を追加
一般会計総額 39億4,137万円

平成二十二年第三回定例会は、九月二十一日開会され、町長提出の予算六件、人事二件、報告一件、その他一件、議員提出の意見案二件その他一件、いずれも原案どおりに可決した。平成二十一年度各会計決算については決算審査特別委員会に付託し、同日閉会した。

補正の主なもの

・北海道市町村備荒資金組合超過納付金	3億0,000万円
・女子職員住宅階段改修工事	297万円
・福祉有償運送事業分車両購入費	240万円
・中山間地域等直接支払交付金	449万円
・林業振興費「緊急雇用創出推進事業分」 「エゾシカ被害防止緊急捕獲事業分」他	747万円
・衛生管理型（定温）荷捌所整備事業補助金	166万円
・苫前町プレミアム地域振興券発行事業補助金	500万円
・北留萌消防組合消防施設負担金	210万円

国民健康保険特別会計	1,524万円追加	総額	5億8,094万円
後期高齢者医療特別会計	3万円追加	総額	4,792万円
下水道事業特別会計	303万円減額	総額	2億9,274万円
老人保健特別会計	54万円追加	総額	132万円

主な質疑内容

質 猫島議員

中山間地域交付金の支払い時期はいつか。

答 伊藤農林水産課長

十一月中の支払い予定。

質 西議員

本年度の新型インフルエンザワクチンの確保は。

答 小丹保町民課長

今年のワクチンの量は確保されている。また、季節性と新型ワクチンの混合である。

質 青木議員

プレミアム地域振興券補助の予算は賛成だが、先の全員協議会にて様々な意見があった。このことを商工会に伝えるのか。

答 平井企画振興課長

皆様から頂いた意見を参考に、商工会に伝えている。地域の住民に喜ばれるよう、商工会役員会で協議すると聞いている。

質 田沢議員

緊急雇用創出推進事業について従事する者二名は、現在決定しているのか。また、旅費の基準地はどこか。

答 山田総務財政課長

回覧による案内と、ハローワークに求人している。期限は、九月二十七日までとなっている。

答 伊藤農林水産課長

旅費については、古丹別―苫前間の設定である。

質 阿部議員

林業振興費の緊急雇用創出事業とエゾシカ被害防止緊急捕獲事業でそれぞれ二人ずつ人員を要しているがチームとして動くのか。調査とは具体的にどのような調査か。

答 伊藤農林水産課長

この事業は北海道の地域づくり総合交付金、国の緊急雇用に分けられ、調査は冬期間、越冬するエゾシカがどんな状況で群れをつくり移動するのかが主なもの。

質 渡部議員

国の雇用対策事業は、雇用が成立するか疑問と不安がある。町単独で七十頭捕獲予定だが、既に捕獲したのか。更に二事業で百頭捕獲しなければならぬが可能なか。

答 伊藤農林水産課長

捕獲数七十頭は現段階ではまだ消化していないが、猟友会と協議した中で二事業併せた捕獲頭数は可能であると判断した。

国民健康保険特別会計

質林 議員

療養給付費負担金返還金が昨年度と比べて低くなっている要因と、退職者医療費交付金返還金が六月議会で増額、九月議会で減額と報告されているが説明願う。

答 小丹保町民課長

要因としては、大きな病気などが少なく健康に過ごされたということと、連合会の計算との誤差により増減が生じた。

【教育委員会の委員の任命】

伊藤通康氏(字古丹別 五十九歳)を教育委員会の委員に任命することに同意した。
賛成五人・反対四人

【固定資産評価審査委員会委員の選任】

小野善市氏(字苦前 七十四歳)を固定資産評価審査委員会委員に選任することに同意した。
全員賛成

各種研修会に参加

【議会広報研修会】

八月二十日・札幌市にて開催された研修会に議会報発行特別委員会の委員五名が参加。

今年は広報コンサルタント深沢徹氏の熱弁に感激し、あらためて広報紙に取り組む姿勢と技術的な指導を受け、今後に繋がるものと思う。

【留萌管内町村議会議員研修会】

九月一日・初山別村にて開催された研修会に議員九名が参加。講師に「生放送の職人として：その舞台裏」と題してSTV主任アナウンサーの明石栄一郎氏による日頃聞きなれぬ講演に耳を傾けた。

【北海道町村議会議員研修会】

七月一日～二日・札幌市にて開催された研修会に議員十名が参加。初日は農業ビッグバンの経済学「グローバル化と人口減少時代の農政改革」と題して経済産業研究所の上席研究員山下一仁氏による講演と、政局展望は白鷗大学教授の福岡政行氏の講演を拝聴した。

二日目に札幌市指定シニアサロンモデル事業指定の地域交流サロン「このはな」を視察した。この施設はNPO法人シーズネットが経営する時代を先取りした施設として現場のご苦労と努力に感嘆し、一連の研修を終えた。

臨時会

六月二十五日開催

一般会計補正予算

追加 二、六一三万円
総額 三六億〇、八一七万円

【補正内容】

・公有林整備事業債繰上償還 二、五五〇万円
・地域ぐるみの子ども読書活動推進事業助成金 六三万円

七月十六日開催

一般会計補正予算

追加 七六万円
総額 三六億〇、八九三万円

【補正内容】

・スポーツ少年団全道大会出場事業補助金 七六万円

国民健康保険特別会計補正予算

追加 三一三万円
総額 五億六、五六九万円

【補正内容】

・特定検診未受診者対策等業務委託料 三一三万円

八月五日 開催

一般会計補正予算

追加 一八八万円
総額 三六億一、〇八一万円

【補正内容】

・公共土木施設災害復旧費 一八八万円

八月二十三日開催

風力発電事業特別会計補正予算

追加 四、九四七万円
総額 一億〇、一六三万円

【補正内容】

・風車三号機増速機交換業務委託料 四、九四七万円

届け現場の声！ 政府に意見書を提出

道路整備に

関する意見書

本道の発展と豊かな道民生活の確保のため生活の生命線である道路の整備を促進するための予算確保について要望する。

森林林業政策に

関する意見書

森林整備の着実な推進と、林業、木材産業の活性化施策の実現について要望する。

一、地域温暖化防止・森林吸収源対策を推進するための安定的な財源措置の確保、森林所有者の植林意欲を高めるための森林経営対策の推進

二、森林の取り扱いに関する所有者の責務の明確化、大面積皆伐の抑制や伐採後の植林に対する仕組みの構築

三、低炭素社会の実現に着目した木材利用の促進、木質バイオマス利用などを拡大

四、施業の集約化を担う人材、現場事業の担い手の育成確保を図り、森林整備に要する経費の定額助成

五、森林・林業政策の推進に貢献するため、国による一体的な管理運営体制の確立

六、地方道路整備臨時貸付金制度の維持・拡充

委員会レポート

**総務文教
常任委員会**
平成22年
8月30日
開 催

総務文教常任委員会	
委員長	阿部 俊一
副委員長	青木 幸隆
委員	小倉 哲志
委員	渡部 一男
委員	林 秀行
委員	星野 恭司

所管事務調査のため、町内視察を実施した。

北留萌消防組合苦前支署

北留萌消防組合苦前支署のサイレン（平成四年設置）が老朽著しく、吹鳴に異常あり交換する。

女子単身住宅

平成四年建設の女子単身住宅（苦前）の玄関階段が経年劣化により著しく危険であり、取替え改修する。

九重「寿の家」

九重「寿の家」（昭和五十九年建設）の屋根及び破風の既設塗装の機能低下が著しく、管理を委託している老人クラブから塗装施工の助成を要望する申し出があり、この工事に対し補助金を交付する。

苦前小学校

交付金事業により整備したト

イレ、遊具施設等の確認及び老朽化したバックネット改修の陳情を受けるとともに、授業も参観した。

苦前中学校

交付金事業により整備したグラウンド改修、図書整備を確認。学校の現状、課題等の説明を受ける。



苦前中学校グラウンド視察の様子

ホワイトビーチ

施設の現状（トイレ、売店棟）を視察、交付金事業により整備した管理棟屋根及びデッキ改修を確認した。

旧児童会館解体工事

旧児童会館（古丹別）、旧老人福祉センター（苦前）を交付金事業により解体した跡地を視

察確認した。

古丹別小学校

交付金事業にて施工した図書整備、トイレ改修、遊具設置、前庭舗装等を確認、授業も参観した。

古丹別中学校

交付金事業により改修したグラウンド整備、トイレの改修、図書整備の確認をし、学校の現状、課題等の説明を受け、授業も参観した。

ハマナス公園

施設の現状（老朽化した遊具、防護柵）を視察した。

オートキャンプ場

管理棟及び老朽化した各施設の現状を視察した。

ななかまどの館

交付金事業にて施工した屋根改修を確認及び老朽化した外壁等を視察した。

苦前町公民館

交付金事業にて施工した、ボイラーの交換を確認した。

新公会計制度に伴う業務委託

国が示した企業会計の手法を取り入れた、財務書類の作成と開示を求められた。このうち、固定資産台帳、貸借対照表等の資産評価に関する支援業務に、専門的な知識を有する民間業者に公有財産のデータ化を委託する。

**産業厚生
常任委員会**
平成22年
9月2日
開 催

産業厚生常任委員会	
委員長	間宮 英明
副委員長	西宮 大志
委員	猫島 優
委員	田沢 秀行
委員	林 秀行
委員	星野 恭司

所管事務調査のため、町内視察を実施した。

三溪分収育林

昭和六十二年十一月に国と分収育林契約した国有林を視察した。

豪雨災害東川地区被災箇所

七月の集中豪雨により被災した東川地区の農地を視察した。

古丹別川冠水箇所

七月の集中豪雨により冠水した農地を視察した。

エゾシカ電牧柵の設置状況

エゾシカの被害防止のために設置した香川地区の電牧柵を視察した。

豪雨災害長島地区被災箇所

七月の集中豪雨により被災した長島地区の農地を視察した。

豪雨災害昭和地区被災箇所

八月の集中豪雨により被災した排水設備を視察した。

融雪災害昭和地区被災箇所

今年の融雪により被災した昭

和地区の農地を視察した。



昭和地区被災箇所視察の様子

昭和高台一号線災害復旧事業

今年の融雪により被災した昭和高台一号線災害復旧現場を視察した。

力昼町有林

力昼地区の町有林を視察した。

町道旭長島線交通安全施設事業

町道旭長島線の交通安全施設事業（歩道新設）現場を視察した。

苦前町生きがいデイサービスセンター

町が指定管理をしている苦前町生きがいデイサービスセンターを視察した。

□中山間地域直接支払交付金

集团的かつ持続可能な体制整備単価（集团的サポート型）の取り組みにより、十割単価を用いる集落が増加したこと、小規模団地（一ヘクタール未満）の協定の農用地への取り組みで二団地が新たに取り組みを図ったことにより事業費が増額となった。

総事業費

補正前 五、六〇九万円
補正後 六、〇五八万円
増額 四四九万円

□平成二十二年度下水道事業予算補正

社会資本整備総合交付金により実施している下水処理場建設工事費が詳細設計及び入札執行に伴い執行残が生じたが、交付全体額（八千万円）の範囲内で適正な事業執行を図るため予算補正をした。

公共下水道処理場建設工事

二、四六六万円減額
二、一六三万円増額

医療対策
特別委員会

平成22年7月
9月開

◆苦前厚生クリニック経営損失補償金

平成二十年五月より無床診療所に変更し、平成二十一年四月より院外調剤に移行している。

平成二十一年度経営損失補償金
二、八一〇万円



苦前厚生クリニック

◆介護保険・高齢者福祉に関するアンケート調査の結果

高齢者が安心して暮らせる地域社会の実現に向けた施策形成の基礎資料とするため、町内に居住する六十五歳以上の方を対象に調査を実施した。

発送数 一、二七六件

回収数 九二七件

回収率 七二、六%

◆苦前厚生クリニック二階部分の活用

地域住民や高齢者団体等より二階部分の利活用を早急に進めるよう要望がある中、町として二階部分を無償で借り受け、民間事業者の経営手法を活かしたい旨、厚生連に申し入れたが、「有償・無償・収益性を問

わず不動産賃貸業にあたり定款から外れる」とのことで現段階では、厚生連自らが実施し得る事業以外に二階部分の活用は認められないとのことであり、今後更に厚生連と協議を進めていく。

臨海地域
特別委員会

平成22年
8月19日
開

◆苦前夕陽ヶ丘風力発電所風車三号機増速機の修繕について

風車三号機の増速機の異音、振動及び歯面の荒れを指摘され、検査した結果、増速機軸受ベアリングの鉄粉によりギヤ歯面が荒れていることが判明した。修繕にあたり被害状況から冬期間の強風に耐えられないので、修繕することとした。

修繕費用 四、七二五万円

全員協議会

平成22年
9月6・7日
開

①健全化判断比率及び資金不足

当町の健全化判断比率及び資金不足は、次のとおり。
実質赤字比率 〇%
連結実質赤字比率 〇%
実質公債費比率 十九、九%
将来負担比率 六十、八%
②市町村備荒資金組合に対する基金納付（積立）
当町の基金に属する現金につ

いては、町内の金融機関に定期積立しているが、低金利の長期化により利息収入が激減している。このため有利な運用を目的に「北海道市町村備荒資金組合」に、超過金を納付（積立）するもの。

③総合振興計画の策定

地方分権がいよいよ実行段階を迎えた今、これからの自治体には自らの責任と判断で自立した町の経営の視点にたった総合振興計画が必要。

近年の地方交付税の減少、過去の大聖業に伴う公債費の肥大化による財政の悪化、少子・高齢化の進行等々、町をめぐる社会・経済情勢は大きく変化しており、こうした状況に対応するため、第四次総合振興計画を取りまとめる。

④新日本海交流センターの小規模修繕について

センターの経年による施設等の老朽化・汚損等が著しいので、町有財産の維持管理と利用者へのサービスの確保など施設の機能を維持するため、修繕に要する費用を予算化する。

修理費用 三五〇万円

⑤福祉車両購入について

訪問介護、福祉有償運送事業に使用するため「地域づくり総合交付金」の内定を受け、福祉車両一台を購入する。

事業費 二四〇万円
交付金 一二〇万円
一般財源 一二〇万円

⑥エゾシカ対策について

エゾシカの生息数の急増による農林業等の被害対策として、国や道の補助金を利用して、エゾシカ被害対策緊急捕獲事業を講ずるものである。

事業費 七四七万円
補助金 六三四万円
一般財源 一一三万円

⑦苦前町プレミアム地域振興券の発行事業について

昨年度実施した「プレミアム地域振興券」は住民の反響もよく、「アンケート調査」を集計した結果、今年度も発行してほしい旨の回答が大半を占めた。

このことから、町民の地元購買力の確保を目的として、この事業に要する費用を一般会計補正予算に追加計上する。

助成金額 五〇〇万円



プレミアム地域振興券販売の様子

一般質問

鳥獣被害

情報インフラ整備

公約の達成度

3氏が登壇！

町内における

鳥獣被害対策は



猫島議員

道内のエゾシカは六十四万頭と推定され、調査開始以降、過去最大の頭数となっており、留萌管内においても農林水産被害は増加している。

町内における鳥獣の農林水産への被害対策について、町内での被害額は年々大きくなってきており、大きな課題である。近隣町村の取り組みなども参考にし、苫前町の取り組みを示して欲しい。

答弁 森町長

近年、エゾシカの生息分布の拡大やトドの来遊頭数の増加により、道内における農林水産被害が深刻化している状況にある。北海道が行った、平成二十一年度のエゾシカ調査結果によると、

道内のエゾシカは六十四万頭と推定され、調査開始以降、過去最大の頭数となっており、留萌管内においても農林水産被害は増加している。

当町では、本年二月に苫前町有害鳥獣被害対策協議会を設置、鳥獣被害防止計画を策定し、エゾシカやトド等の被害防止に向け、今後の取り組み方針等についての協議を進め、平成二十二年年度の鳥獣被害防止総合対策事業で電牧柵（五十km）の購入を要望していたが不採択となり、今年度の本補助事業による対応は不可能な状況である。しかし、本年度から地元猟友会へ鳥獣有害駆除業務を委託しており、この業務の中でエゾシカについては七十頭の駆除を目標として行っている。

この目標に向け、当町独自の対策としては、春先に集中的なエゾシカ駆除を実施するため、ハンターの負担軽減を図るべく、駆除したエゾシカの回収運搬作業

を町職員が行っている。また、国や北海道では、八月にエゾシカ駆除及び、個体数調整に関する緊急対策として新たな助成制度が新設され、この助成制度である北海道の地域づくり総合交付金及び緊急雇用創出推進事業を活用して来年三月までにエゾシカの駆除や越冬地の調査、捕獲により、新たに百頭の追加駆除を目標として行う予定である。電牧柵の設置については、今年度中に町内各地域ごとに設置要望の取りまとめを行うとともに、本町の厳しい財政状況を鑑み、北海道とも現補助事業に代わる財源確保に向けた協議をしながら新年度に対応できるよう進めたい。

情報インフラ整備の

必要性は



西議員

現在では、紙媒体、放送、あらゆる手段を網羅できる方法としてインターネットを活用した情報の共有化のあり方がある。インターネットを利用するには、環境整備が必要となるが、その整備

にあつて、過疎地域は、民間業者による積極的な展開が難しく、こうした地域は、整備がおろそかになっている現状と思う。

しかし全国各地で多くの自治体が整備に積極的だ。まちづくりだけの情報共有にとどまることなく、今や産業界、経済活動においては必須の整備であり、ライフレインを引くのと同様と捉えても良い現状だ。

田舎では、インターネットを接続し、活用する人が少ないと言いが、必要とする世代や業種から見ると、多い少ないという議論の前に、無くてはならないインフラ整備として認識があるかという議論になる。こうした環境を活用し、町の情報や議会の情報を積極的に発信、交流することが、今後のまちづくりを進める上で大変重要なものという認識を私は持つ。今後の自治体運営においては、会議や施策状況の発信に動画や文書をデータ化し、公開を積極的に行うことが容易になっている、こうした現状を踏まえて次のことを伺う。

- ①現在、限られた地域でのブロードバンド整備であるが、必要とされる地区まで整備がされているか調査等が必要ではないか。
- ②今後、まちづくりの情報発信として考えられる方法はどのようなものになっていくのか。

③情報提供、共有の仕組みの研究を進め、情報インフラ（ブロードバンド等）の早急な対応が各分野で必要と感じるがどう考えるか。

答弁 森町長

- ①ニーズを把握するためのアンケート調査などの手法は高齢者比率との兼ね合いから、必ずしもその必要性を裏付けられない可能性があることから、現時点においては消極的に受け止めている。
- ②光ファイバーによる回線網を整備することなどは、様々な用途への利活用として良いインフラであると考えますが、こうした基幹的なインフラ整備についてはじめて具体的な情報発信の方法論に結びつく認識する。
- ③将来的に必要な不可欠と認識しており、新成長戦略ビジョンなどの今後の政府の動向を踏まえ十分に検討し、慎重に進めて行きたい。

公約の達成度と
次期の進退は？



田 沢 議 員

① 今日まで数多くの選挙公約を
実現してきたように思われる反
面、やり残したこともあるよう
に思われる。とりわけ、遊休化し
ている厚生クリニックスの二階部分
の活用方法に関しては多くの町民
が関心を持っている問題だと思
う。「老健施設」への移行を町長
自らの判断により延期し住民説
明会まで開催したことは記憶に
新しいものがある。

現在は無床診療所として地域
医療の一躍を担っているが、先般
開催した「医療対策特別委員会」
で二階部分の有効活用案で凄く
具体的で現実味のある提案があ
ったが、厚生連の回答で「定款
上、不動産賃貸業は出来ない」と
のこと。

町長は「グループホーム的な
施設は必要だ」と言っていたが、
厚生連の回答を考えれば簡単に
解決できる問題ではないように
思われる。二期目の最終年度を
迎え、選挙公約で掲げた項目の

達成状況はどの程度だと思っ
たか。またやり残した公約はあ
るか。

② 公約達成状況にも関連する
が、森町政二期目が終わろうと
している今日、三期目に向け出馬
する考えはあるのか。或いは後進
道を譲る考えはあるのか。

答 弁
森 町 長



力年平均では一九・九パーセント
まで落とすことができた。
今年は二期目の最終年だが、
まだ半年経過であり四年目の実
績を整理している訳ではないが、
選挙公約とした政策は大まかな
ところは実現してきていると考
えている。

① 本町のような規模の町は国や
道の強い影響を受けやすく、景
気の動向を見て国や道で出来る
事業は、徹底して実施していく方
針で粘り強く進めている。特に補
助事業や直轄事業は町に有利に
展開するよう積極的に運動を展
開してきた。このような中、
町の個性を發揮し、他市町村と
違った拘りや個性を發揮してい
くことがポイントとなる。それ
は「財政の安定化」が第一の課題
であり、徹底した経費の節約を
図り、町民にも節約していただく
周知も徹底して行い進めてきた
結果、平成二十一年度の実質公債
費比率は一六・六パーセント、三

② 来年四月の統一地方選での三
期目の出馬については、国や道の
事業でクリアされていないもの
や継続事業もあり、国の政権交
代で先が見えないものも多くあ
る。今までの実績を踏まえ私の
人脈をフル回転させていかなけ
れば難しいものがあり、踏ん張り
どころであると思っている。
特に本町は第一次産業をベース
にまちづくりを展開しているが、
農業漁業の所得保障問題や商工
業対策、医療福祉対策も急務で
ある。私は自分の能力を過信し
てあまり長い期間町政を担当す
べきではないと思っているが、国
や道の財政状況の悪化や政権の
不安定等を考えたとき、継続し
て町政を担当してきた私として
現時点では辞められないと思っ
ている。また後援会とも相談し
ていないが、継続していくこと
を前向きに検討し、来年の町長選
に出馬することで考えていること
をご理解いただきたい。

議会だよりに対する
ご意見・ご要望を
お寄せ下さい。

Eメール
gikai@town.tomamae.lg.jp
FAX 64-2142



編集 雑 感

「納税について」

苦前町の財政運営の柱となる
町税、使用料などの滞納が昨年
も微量ながら増え、滞納総額は
四千万円の大打に達した。
景気低迷で生活苦のため、税
金を納められない町民もいるが
中には長期間の滞納者も見られ
る。まじめに税金を納める町民
の中には、不公平感が生じてい
る。滞納未納額をすべて回収で
きるわけではない。死亡や住所
不明などで不納欠損と処分する
ケースもある。まじめに納税し
た町民は「なぜ、不納欠損にな
るまで放置していたのか」と思
うだろう。

税金はそのうちにと想方
ち、気がつけば滞納が増える場
合もある。滞納が大きく増える
と徴収者も請求しにくく、滞納
者も支払いに応ずることができ
なくなる。

このたび、道と市町村が税の
徴収対策で初めてタックを組
み、滞納者を対象に一斉督促に
乗り出すことになった。年々道
民税、市町村民税の累積滞納が
膨らんでおり、督促に応じない
滞納者には給与、預金、財産等
の差し押さえなど、強硬姿勢で
臨むということだ。

この制度に苦前町も参画して
いるが、今後の成り行きをしっ
かり見ていきたい。

(青木 記)

苫前町130年記念陸上自衛隊第2音楽隊巡回演奏会苫前町公演

8月28日(土)公民館において、苫前町130年記念陸上自衛隊第2音楽隊巡回演奏会苫前町公演が開催され、約280名が音楽に酔いしれた。旭川市に所在する陸上自衛隊第2音楽隊は、昭和29年に発足、戸田正久1等陸尉以下36名の編成で、自衛隊における儀式や定期演奏会のほか、第2師団管内各市町村で開催される各種行事などで演奏し好評を得ている。

本町での公演もオーディナリーマーチやアニメメドレー、島唄、マイケルジャクソンメドレーなど様々なジャンルを披露、観客の心をとらえ、アンコールでは、龍馬伝のテーマなどを演奏、惜しめない拍手が会場から響いていた。



海難救助に向けて — 苫前救難所夏季訓練 —



8月28日(土)苫前漁港内において、苫前救難所(川村信介所長)所員21名が海難救助のための技術向上に向け訓練を行った。

この日の訓練は遭難した船に向けもやい銃の発射訓練や破碎船への消火訓練のほか、海防水救センターより職員を派遣してもらい、救命胴衣や救命イカダの説明及び救命胴衣の有無での浮遊の違いなどの体験も実施された。

救命胴衣を着用していなければ、カッパ内に水が入り込み、その重さから疲労度が増すことが改めて確認され、作業行う際の救命胴衣の着用義務の意義も改めて確認できたようだった。

夏はこれから — 古丹別保育所夏祭り —

8月28日(土)古丹別保育所(川森のり子所長)園庭において、同保育所母の会(檜森愛会長)主催の夏祭りが開催され、園児や保護者のほか小学生や近隣住民などが多数集まり、過ぎゆく夏のひとときを楽しんだ。この祭りは古丹別地域でお盆の祭りが無い時期があり、子ども達のため盆踊りを体験させたいということで母の会が中心となり開催されたことがきっかけで昭和63年頃より行われている。

この日も、子ども達の大好きなおもちゃ釣りや輪投げなどの遊びの出店やわたあめ、フラッペなどの食べ物の出店のほか、日用品や野菜などのフリーマーケットなどの出店も行われ、子どもだけでなく、多くの大人も出店と盆踊りで楽しい時間を過ごしていた。



防犯意識を高めるために — 実践型防犯教室 —

全国的に犯罪が多発している中、家庭の防犯は自らが守っていくことの意識づけを目的とした北海道警察主催の実践型防犯教室が8月31日(火)公民館で開催され、約30名の住民が参加した。



この教室では、北海道内での主な侵入盗手口であるガラス破りや特殊工具による開錠がどのように行われるかを、網入ガラスを実際に割り、その弱さの体験や特殊工具を用いたドアの開錠が10秒かからずに行われてしまう様子から、その恐ろしさを実感した。

それらの防止の手段としては、時間をかけさせることや音や光での撃退などが効果的とのポイントも確認でき、防犯グッズの紹介でも参加者の興味を引きつけていた。

改めてふるさとを知ろう — 成人講座「ふるさと散歩道」 —

9月4日(土)に公民館主催の成人講座「ふるさと散歩道」が開催、約20名の参加者が苫前市街地の史跡めぐりをしながらウォーキングを楽しんだ。

史跡の説明は、町郷土史研究会の野澤哲美さん、鎌田信夫さん、濱本哲也さんの3名が担当。集合場所であるとままえ温泉ふわつとで簡単な事前学習と準備運動をした後、戸長役場跡(明治36年設置)や岡田家番屋、寺子屋跡(明治9年)などから苫前新港のダブルデッキを通過してふわつとまで歩く約5kmを2時間30分かけて歩いた。

参加者は、「知らない場所を発見できてよかった」「マチの良さを実感できた」などと振り返りながら、とままえ温泉ふわつとでの昼食を堪能した。



平成22年度 苫前町小学校体育大会

9月2日(木)古丹別小学校において小学校体育大会が開催され、町内両小学校の4年生以上が参加、日頃の体育活動の成果の交流と陸上競技の技能向上を目的に行われた。

同大会は、これまで6月に開催されてきたが、1学期中は行事が多いこと、学習時数の確保が難しくなってきたことから、学芸会前のこの時期の開催となった。この日は100m、800mなど5種目のトラック競技と走り幅跳び、ソフトボール投げなど3種目のフィールド競技の合計8種目で日頃の運動の成果を発揮した。

なお本大会では、走り幅跳びに出場した古丹別小学校4年の矢田剛琉くんが昭和58年に出生された記録に並ぶ3m58cmを跳び、大会タイ記録をマークした。



種目	氏名	校名	記録	種目	氏名	校名	記録		
100m	4年女子	佐井 悠那	苫小	18"22	走り幅跳び	4年女子	黒田 侑里	古小	2m48
	4年男子	矢田 剛琉	古小	16"28		4年男子	矢田 剛琉	古小	3m58
	5年女子	木藤 優花	古小	17"87		5年女子	木藤 優花	古小	3m00
	5年男子	前川 智輝	古小	18"99		5年男子	平井 廉	古小	3m25
	6年女子	石川 真子	苫小	18"03		6年女子	柴田きなり	古小	2m87
	6年男子	堀井 勇人	苫小	15"91		6年男子	前川 至	古小	3m75
800m	4年女子	伊藤 歩	苫小	3'40"69	走り高跳び	5年女子	岩田 来千	苫小	1m05
	4年男子	横野 稜平	苫小	3'08"15		5年男子	千葉 大翔	苫小	1m08
1000m	5年女子	岩田 来千	苫小	4'14"96		6年女子	永井 星奈	古小	1m05
	6年女子	金子 真彩	苫小	4'16"47		6年男子	堀井 勇人	苫小	1m32
1500m	5年男子	平井 廉	古小	6'11"56	ソフトボール投げ	4年女子	杉野 佳奈	古小	18m79
	6年男子	前川 貴頌	古小	6'02"97		4年男子	横野 稜平	苫小	37m57
400mリレー	古小	工藤 瑠華・瀬川 桃愛 永井 星奈・年代 結香		1'13"18		5年女子	石川 初音	古小	35m50
	古小	工藤龍之介・平井 廉 前川 幹也・前川 貴頌		1'06"11		5年男子	川森 大夢	古小	40m82
						6年女子	鴨田 菜里	古小	28m04
						6年男子	前川 貴頌	古小	52m62

(各種目の第1位のみ記載・太枠は大会タイ記録)

苫前町130年記念 第33回苫前町民マラソン大会



9月12日(日)スポーツセンター周辺において第33回苫前町民マラソン大会が開催され、1kmから5kmまでの4種目の中の親子の部から一般の部までの13部門が行われ、それぞれ自己記録への挑戦に向け激走が繰り広げられた。

朝から青空に恵まれ絶好のマラソン日和となった大会では、町体育協会長からの挨拶のあと、苫前小学校6年の金子真彩さん、古丹別小学校6年の永井星奈さん、苫前中学校2年の成川楓さん、古丹別中学校2年の鈴木章太くんの4名の選手宣誓で競技が始まった。

競技では、スタートダッシュで先を争う姿やゴールで1つでも順位を上げたいと必死に走る姿などが見られ、沿道で応援する保護者や地域住民の方も拍手や声援で応援していた。

同大会では3部門で大会新記録を更新した(太枠が大会新記録)。大会の結果については次のとおり。

種目	部門	氏名	タイム	種目	部門	氏名	タイム
1km	親子の部	工藤瑠稀矢 工藤 慎也	1'35"61	2km	小学4年女子の部	黒田 侑里	9'49"26
		小学1年男子の部	平井 憲吾		4'12"61	小学5年女子の部	岩田 来千
	小学1年女子の部	清水 音寧	5'05"90		小学6年女子の部	金子 真彩	8'25"06
	小学2年男子の部	瀬川 永夢	4'08"99	小学5年男子の部	平井 廉	12'55"22	
	小学2年女子の部	高田 佳歩	4'08"49	小学6年男子の部	前川 貴頌	12'40"90	
	2km	小学3年男子の部	西 志尚	8'14"24	中学生女子の部	福田 レナ	14'27"18
小学3年女子の部		池田 朱桜	9'11"89	一般女子の部	芳賀 昌子	16'29"45	
小学4年男子の部		横野 稜平	8'13"39	中学生男子の部	伊藤 翔貴	20'13"19	
				一般男子の部	蓮見 一輝	19'34"62	

(各種目の第1位のみ記載・太枠は大会新記録)